

## 第5回（1989年）東方学術賞

拝啓 中秋の候 貴台におかれましては御清祥のことと御慶び申し上げます  
さて 財団法人 東方研究会におきましては 本年度もインド大使館と共同主催にて 学者の秀れた業績を世に広く顕彰することに致しました  
先般来 選考委員会において慎重審議の結果 第五回東方学術賞受賞者は  
特別顕彰として 勝又俊教殿（大正大学名誉教授）  
学術賞として 久保継成殿（霊友会会長 立正大学講師）  
学術賞として 森 祖道殿（城西大学教授）  
学術奨励賞として 阿部慈園殿（東方学院総務兼講師）  
更に本年度より東方文化賞を設立し  
東方文化賞として 西村公朝殿（東京芸術大学名誉教授）  
東方文化賞として 富山 奏殿（四天王寺国際仏教大学教授）  
の学績を讃えることに決定しましたので 左記の如く 顕彰式を行ないます  
一、場 所 インド大使館  
東京都千代田区九段南二丁目二ノ十一（千鳥ヶ淵）  
一、日 時 平成元年十月十九日（木曜日）午後三時  
つきましては 御多用中恐縮ながら御来駕の栄にあずかりたく ここに御案内申し上げます 敬 具  
平成元年十月 吉辰  
財団法人 東方研究会  
理事長 中 村 元  
各 位

### 中村元 学院長挨拶

主催者を代表致しまして 一言御挨拶申し上げます

このたびインド大使館の御協力を得まして 共同でここに第5回東方学術賞の贈呈式を開くことができますことは われわれの最も光栄とするところであります 本日は 朝野各方面から 御多忙中を御繰り合わせ わざわざこの会場まで御来駕御臨席賜りましたことを ここに厚く御礼申し上げます

財団法人 東方研究会は「東洋思想の研究及びその成果の普及」ということを目的としている研究会でありまして 1970（昭和四十五）年 11月 12日付けを以て財団法人の設立許可を受けましたが すでに 19周年に相当致します その間 諸般の活動を続けて参りました まことに微々たる団体ではありますが 全国にわたる各方面の同志・篤志家の御協力によりまして 次第に発展して参りました

そしてさらに 学の発展を計るために真に学問的意義があり 世の人々を益する恒久的な業績を遂行したいとかねがね念願しておりましたが その一環として インド大使館と共同主催にて 「東方学術賞」を設けて 学者のすぐれた業績を世にひろく顕賞すること

に努めて参りました。そして本年度もインド大使館と共同主催にて、学者の秀れた業績を世に広く顕彰することに致しました。

それにつきましては、インド大使館 Arjinn Asrani 大使はじめ、館員の方々の心からなる御協賛を得まして、順調に進めることができました。よって先般来諸方面より多数の識者の御意見を徴し、さらに選考委員会を設けて慎重に審議をつずて参りました。選考委員は、奥田清明殿・川崎信定殿・玉城康四郎殿・奈良康明殿・前田専学殿・水野弘元殿・山口恵照殿・山口瑞鳳殿と小生と計8人に御依頼申し上げました。その結果次の方々の業績をたたえることに致し、本日このように顕彰式を開催することとなりました。

これより第5回東方学術賞の受賞者の方々のお一人お一人の功績の顕彰に移ります。

まず特別顕彰を受けられます勝又俊教博士は、多年にわたって東洋大学教授、さらに大正大学教授次いで大正大学学長を歴任され、その間には東京大学などにも出講せられ、多くの俊秀の学徒を育成され、昨年までは真言宗豊山派の諸師から推戴され、化主とよばれる管長職に就任せられ、同派全体の尊敬を一身に受けておられまして、任期完了とともに、辞任されましたが、今なお壯者を凌ぐ英気をもって学術研究と教化指導に当たっておられます。

多年にわたる研究の御業績は非常に数多く一々列举できないほどであります。特にインドの唯識説と真言密教には顕著な業績を示していらっしゃいます。権威ある古典の国訳などのほかに『仏教における心識説の研究』（山喜房佛書林、一九六一年）という大著を完成されました。また真言密教の方面では特に精密な邦訳を付した『弘法大師著作全集』三巻は、今日なお学徒のよりどころとなっているものであります。さらに宗派の区別にとらわれずに日本仏教における密教の展開をたどられまして『密教の日本的展開』（春秋社

1970年）『弘法大師の思想とその源流』（山喜房佛書林、1981年）などの大著を著されました。学徳高き師としてひろく学界の敬慕を受けておられます。

半世紀以上にわたる学問上のまた教化上の御活動に深く敬意を表し、ここに貴台の御功德に対し、失礼ではありあすが、『東方学術特別顕彰』をもっておむくい致したいと存じます。

久保継成博士は、日本でも有数の新興仏教教団である霊友会の会長であります。多忙の激務の中にありながらも研究を廃することなく、多年の研究をまとめて『法華経菩薩思想の基礎』（春秋社、1987年二月）という大著を完成されました。特に同氏の盛んな宗教活動のための学問的基礎を得ようとして努力されたもののように思われます。

殊に久保氏の刮目すべき功績は、国際仏教研究所（International Institute for Buddhist Studies）を創設して、インド研究および仏教研究の領域において国際交流を盛んならしめたことでもあります。その恩恵を受けている外国人学者は非常に数多いのであります。

久保氏が始められた学問的活動の意義を高く評価し、財団法人東方研究会は『東方学術賞』をお贈りしたいと存じます。

森 祖道博士は、駒沢大学、東京大学でインド哲学を研究したのちスリランカに留学し

Peradeniya で仏教百科全書 (Encyclopaedia of buddhism) の編集事業に参加するとともに南アジアの文化を深く研究されました。現在は城西大学教授として原始仏教・南方仏教の研究に専念しておられます。従来南方仏教を研究する人々は聖典であるニカーヤを手がけていましたが、森博士は学者があまり研究しない聖典外のパーリ語文献を研究し『パーリ仏教註釈文献の研究』(山喜房仏書林 1984年)という大著を刊行されました。この種の研究としては日本はのちろんのこと、外国にも例を見ないものであります。英文でも本年刊行されました *Studies of the Pali Commentaries* (1989) という大著があります。わが国では数少ない本格的なパーリ学者であります。開拓者としての同氏の功績をたたえて、財団法人東方研究会はここに森博士に『東方学術賞』を贈ります。

阿部慈園博士は駒沢大学および東京大学ならびに大学院において仏教を研究したのちにインドで特に学問的権威の高いプーナにあるバンダールカル研究所 (The Bhandarkar Oriental Research Institute) で4年間研究し、ついでプーナ大学より PH.D. の学位を取得したのみならず、その学位論文は同研究所から刊行されました。この権威ある研究所から日本人学者の業績が刊行されたのは初めてであります。

南方仏教の修行僧の頭陀行に関する規定を扱ったものでして *SaGkhepatthajotani Silla-dhutaGga*, 1981 という題名です。その外に頭陀行などに関して多数の論文がります。東方研究会では総務として多年その発展に尽力されました。

春秋に富む同氏の今後の発展を期待して財団法人東方研究会は阿部博士に対して『東方学術奨励賞』を贈呈致します。

なお学術と関係の深い文化領域における功労者に対し、その業績をたたえるようにしたいという諸方面からの要望がありましたので、本年度より次の両氏に『東方文化賞』をお贈りすることといたしました。

彫刻家・西村公朝氏は、東京芸術学校彫刻科をご卒業ののち、美術院国宝修理所に就職し、国宝及び重要文化財の仏像修理を行い、所長となり、また東京芸術大学でも教授として若き学徒の薫陶に当たり、現在は東京芸術大学名誉教授であります。広隆寺・弥勤菩薩像、中宮寺の如意輪観音像と伝えられる仏像、法隆寺の百済観音像などの国宝を修理されますとともに、蓮華王院の千手観音一千体のうち六百体を修理されるなど、その功績は枚挙に暇がありません。総点数は約千三百体に達します。専門の論文も多数発表しておられます。近年は社会一般の人々の仏像彫刻を指導しておられますが、西村氏のつくられた仏像は、親しみ易く、暖かみがあり、人々が魅了されるのもむべなるかなとおもわれます。

著書も多数あり、仏像彫刻の鑑賞のしかたを平易に解り易く説かれているという点では第一人者であります。その多大の御功績を讃えて財団法人東方研究会は、西村氏に『東方文化賞』をお贈りいたします。

富山奏博士は京都大学で国語学国文学を専攻されてのち、四天王寺国際仏教大学の教授として若き子女の教育に従事され、現在は副学長兼図書館長であります。近世の俳文学を専攻され、特に芭蕉を研究しておられます。芭蕉に関する専門的な文献に即した丹念な御研究が多数ありますが『伊賀蕉門の研究と資料』(風間書房 1970) は特に知られ

ております 文学の一ジャンルとしての俳句という枠組みにとらわれず芭蕉及びその一門の宗教的心情を闡明し仏教その他東洋の諸宗教の影響を受けているあとを明らかにされました 近年は雑誌『四天王寺』誌に多年にわたって芭蕉の句の一つ一つについてのその心情を開明しておられますのは 読者の大いに共感するところがあります その独自の功績をたたえ 財団法人東方研究会は ここに『東方文化賞』を贈呈致します

以上の次第でありますので 諸方面の御賛同をお願い申し上げます

なお副賞として加えるために インド大使館からいろいろ記念品が寄贈されました また株式会社名著普及会から Lewis Lancaster: PrajJapAramitA and Related System 6冊、東京書籍株式会社からは奈良康明博士編著『仏教名言辞典』6冊が 株式会社春秋社からは中村元著『インド人の思唯方法』6冊が贈呈されました

開催につきましてはインド大使館の方々の特別な御協賛にあずかりましたことを深く感謝致しております そのお力によりまして微力なわれわれの志願がこのようにみごとに実ったのであります おかげさまで諸方面より祝電・御祝いなどを頂きまして有難く存じております

式のあとのパーティーは 大使館の御厚意によるのであります また報道関係はじめ諸方面の方々に御協力頂きましたことを 大いに感謝いたしております そしてお集まりのみなさまに心から厚く御礼申し上げます  
ただ何分にも われわれが微力で手不足でありますために 何かと不行き届きの点が多々ありましたことは まことに申訳なく存じますが この点は平に御寛恕のほどお願い申し上げます そして将来にわたって一段と活動を発展させたいと存じておりますので 今後ともよろしく御指導御後援のほど願ひ上げます

以上 甚だ蕪辞を連ねましたが これを以て御挨拶のことばとさせて頂きます

Ambassador's speech at the Award Presentation  
Ceremony of the Eastern Study Prize for 1989

Professor Nakamura, Professor Nara  
and distinguished guests,

It is my privilege to welcome you all to the Embassy this afternoon. Today, we have assembled here to witness and support the Eastern Institute Inc. in their endeavour to honour scholars for their outstanding contribution to studies in Buddhism and in the field of Asian culture.

2. The Eastern Institute was established by Prof.  
Hajime Nakamura and other scholars of oriental philosophy

almost a decade ago. professor Nakamura is a leading exponent of Buddhist and Indian philosophy in Japan. Through the Eastern Institute, he has made a significant contribution in spreading the intellectual and religious heritage of the East throughout the world.

3. Though there was little direct contact between India and Japan till early this century, indirect cultural exchanges have existed for many centuries. The introduction of Buddhism in the 6th century made Japan aware of the existence of India. Buddhist monks like Bodhisena visited Japan in the 8th century. Daruma, the beloved figure of religion and Zen art in Japan, was an Indian monk. The study of Sanskrit provided inspiration for the development of the Kana syllabry in Japan, and Indian legends found a place in Japanese literature through Buddhist scriptures. Customs of Indian origin survive even to this day in Japan. Japanese art forms such as fresco paintings have close affinity with the wall paintings in the cave temples of Ajanta in India.

4. In modern times most people are inclined to worship only material progress. But there are people like you who think more deeply. We in India also respect time-honoured values which make our lives more stable and peaceful, harmonious and joyful.

5. There are many great scholars present here today, who have delved deeply into Indian philosophy and have written treatises on different aspects. It was indeed a very difficult task for the Selection Committee of the Eastern Study Prize to choose only six scholars among them for this year's prizes. I am happy that we have restarted these awards and I would like to express my hope that this will continue in future.

6. I offer my congratulations to all the Prize Winners and also to the Eastern Institute for having selected them for this prestigious prize.

